

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2019」 作品募集のご案内

2009年に「桜のある水辺写真」の募集を開始してから、今年で10周年を迎えました。

皆様が2019年に撮影した「桜のある水辺風景」の写真と、メッセージについて募集します。

水辺の魅力を再発見できるような、素敵な写真をお待ちしております。応募頂いた写真については写真集形式にまとめ、WEBにて公開する予定です。

▶過去の写真集はコチラ

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

▶応募〆切：5月31日（金）

▶応募方法：EメールとFacebookの2つの方法があります。詳しくは右のチラシを御覧ください。

▶作品募集案内ページ：

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1059.html>

(JRRN 事務局・阿部充)



桜のある水辺風景2019 募集期間 2019年5月31日(金)まで

写真大募集

2009年に「桜のある水辺写真」の募集を開始してから、今年で10周年を迎えました。Facebookや写真集を通じて紹介させていただきます。沖縄から北海道まで、日本の水辺の魅力を再発見できるような素敵な桜の水辺写真をお待ちしております。

2018年応募作品

桜のある水辺風景（2019年撮影の作品に限ります。）

応募概要 ①ご本人が撮影した写真に限り。②一人3点まで可能。③個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。④過度な画像加工はご遠慮ください。

応募方法 Eメールでの応募
タイトル欄「桜のある水辺風景2019応募」とし、本文に①氏名・住所・電話番号・メールアドレス・作品名（作品名は、市町村・河川名・撮影場所・撮影年月日・撮影時間・撮影機材・撮影方法・撮影者名）を記入の上、写真と共に info@arr.net まで送付下さい。
※1枚のサイズが縦横10cm以内でお願いします。

Facebookでの応募
1. 「桜のある水辺風景」Facebookページにアクセスしてください。
2. 投稿欄の「写真・動画」から写真を投稿して下さい。
3. 「コメント欄」に「氏名・住所・電話番号・撮影年月日・撮影場所・河川名・水辺名・作品名（作品名は、市町村・河川名・撮影場所・撮影年月日・撮影時間・撮影機材・撮影者名）」を入力して下さい。
4. 「投稿する」ボタンをクリックしてください。（※）

注意事項 ①Facebook及び写真集形式（PDFで6月公開予定）で紹介します。②応募作品を紹介する際には氏名も掲載します。③同一地点での類似した作品は事務局より写真集掲載作品を選ばせて頂く場合があります。④応募内容が本企画の趣旨に沿わないと判断した場合は紹介を控えさせていただきます。⑤JRRNの刊行物やウェブサイト等で使用させて頂くことがあります。⑥応募作品は返却致しません。

※応募に関する詳細情報はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1059.html>

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 応募先・問合せ先：info@arr.net 

チラシ URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/files/2019/03/JRRNsakura2019.pdf>

2

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー水辺の「小さな自然再生」データベースが完成しました

2014 年度の「水辺の小さな自然再生事例集」制作着手を皮切りに、JRRN は「小さな自然再生」研究会の幹事を担いながら、水辺でできる小さな自然再生の全国への普及促進に向けた様々な取組みを展開しています。

活動開始から5年目となる2018年度は、前頁で報告させて頂いた小さな自然再生サミットを通じた全国の仲間の繋がりの強化、またこれまでの全国の先進的取組みから得られる教訓や技術を共有していくことを目的として、水辺の小さな自然再生の実践事例の集約に努めて参りました。

この全国の事例を地図から検索できるデータベースが完成しましたので、是非とも皆様にご活用頂ければ幸いです。

※小さな自然再生データベース

(以下のホームページ中段の地図画面より検索可能)

<http://www.collabo-river.jp/>

「小さな自然再生」研究会の皆様の精力的な普及活動を通じて、多くの方々に小さな自然再生に関心をお持ちいただくようになりました。しかしながら、技術面でも効果の検証面でも、まだまだ不十分なところがあるのが実情です。

実際の作業において、作業者が技術を習熟しているとは限りません。また、生態学の方野からも対立が生じるかも知れません。しかし、地域の自然を再生するためには、多くの主体が自らの発案で参画し、多くの協働者を得て進めて行かなければ、現実的には前に進まないという側面もあります。参加する主体が多様になれば、社会教育という観点からも技術体系も求められるでしょう。

「小さな自然再生」という取り組みは、まだまだ事例が少なく、十分な技術体系ができていません。これらの完成度を高めるためには、優れた事例だけでなく、工夫が凝らされ、課題が整理されている事例を集めることが必要だと私たちは考えています。また、個々の事例をご覧頂ければ分かりますとおり、実に多様な主体による関わり方と運営方法があります。小さな自然再生がより一層、色々な場所で展開されてゆくためには、土木の技術、生態学の技術、地域や社会との関係の技術など幅広い観点からの知識と知恵の整理が求められています。

そこで、JRRN では、今後も全国の小さな自然再生の担い手の皆様より事例を提供頂き、それらを本データベースに集約しながら、皆様の貴重な経験の共有と担い手が繋がる仕組みの構築を目指して参ります。水辺でできる小さな自然再生に関わる事例を情報提供頂ける方は、JRRN 事務局 (info@a-rr.net) までご連絡ください。事例募集の詳細は以下のページにてご覧頂けます。

※水辺の小さな自然再生の事例募集のお願い

http://www.collabo-river.jp/201810cases_request/

皆様からの事例情報の提供もお待ちしております。

なお、本データベースは、公益財団法人河川財団による2018年度河川基金の助成を受けて制作しました。

多大なるご支援を賜り、どうもありがとうございました。

(JRRN 事務局・和田彰)

小さな自然再生の事例 (地図から検索) : 34か所



<http://www.collabo-river.jp/>

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)活動 – ARRN forum2019 発表者募集(3/15〆切)

『第 16 回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』 2019 年 10 月@ブリスベン

本誌 2 月号でご案内差し上げました「第 16 回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」の発表者募集期限が 3 月 15 日(金)まで延伸されましたので、改めて発表者募集のご案内をさせていただきます。

【300 words 発表要旨〆切：3 月 15 日(金)】

本年の“ARRN 国際フォーラム 2019”は、国際河川財団が主催する第 22 回国際河川シンポジウム(22nd International RIVER SYMPOSIUM)の特別セッション「Rivers by design - from Restoration to Resilience」として 2019 年 10 月にオーストラリア・ブリスベンで開催します。

国際河川シンポジウムは、学術会議とは異なり、河川再生に取り組む多様なセクターが参加し、川づくりに関わる事業や活動から得られた経験や教訓を共有する国際交流会議です。

本特別セッションでは、英語を共通言語に、口頭発表 12 分及び質疑応答 3 分の計 15 分が各発表者に割り振られ、日本、韓国、中国をはじめとするアジアの国・地域から河川再生の経験を発表頂く予定です。

あなたが取り組む川づくりについてご発表頂ける方は、是非とも以下の ARRN ホームページをご覧ください。

(応募申請した発表要旨は、国際河川シンポジウムの評価委員会による査読を経て 4 月末に結果発表されます。その後の論文等の提出はありません。)

日本からの多数の方々のご参加をお待ちしております。

■第 16 回 ARRN 国際フォーラム案内ページ(日本語)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1046.html>



As of 18th Feb. 2019
Asian River Restoration Network (ARRN)

22nd International RIVER SYMPOSIUM
(October 20-24, 2019 Brisbane, Australia)

SPECIAL SESSION
Concurrently "16th ARRN's International Forum on Waterfront and Watershed Restoration"

Call for Abstracts (Presenters)
Abstracts submission: **by 15 March 2019**

(1) Theme:
Rivers by design - from Restoration to Resilience

(2) Organizer:
Asian River Restoration Network (ARRN)

(3) Keywords:
River restoration, Restoring freshwater ecosystems, River basin planning, Basin master plans, Water sensitive urban design, Nature-based solutions for climate change, Collaboration with stakeholders etc.

Procedure for Abstract submission:
If you wish to present in this special session, please visit 22nd International River Symposium website first (<https://riversymposium.com/>), go to "Submit an Abstract" page below, and submit your abstract by following the instructions.
<https://riversymposium.com/submit-abstract/>

In addition, after submitting your abstract, please inform ARRN Secretariat (info@a-rr.net) your "Full name" and "Title of your presentation" by email.

Key dates:

- 15th March 2019: Deadline for abstract submission
- 30th April 2019: Notification of acceptance
- 30th May 2019: Deadline for registration and payment

If you have any question, please contact to ARRN secretariat (info@a-rr.net).

22nd International RIVER SYMPOSIUM
EXCELLENCE - COLLABORATION - INTEGRATION

第 16 回 ARRN 国際フォーラム案内チラシ(英語版)

http://jp.a-rr.net/jp/news/info/files/2019/02/ARRNforum2019_call_abstract2.pdf

(JRRN 事務局・和田彰)



22nd International
**RIVER
SYMPOSIUM**
EXCELLENCE - COLLABORATION - INTEGRATION

水辺からのメッセージ No.118

岡村幸二 (JRRN 会員)

新しい伝統表現の街： 赤レンガ造りの歴史を踏まえ 船からも街の活気が見える



撮影：2018年8月（ドイツ・ハンブルク州・エルベ川）

◆生まれ変わるエルベ河畔

ハンザ同盟の都市として栄えたエルベ川に面した港湾地域。元々は造船所や流通倉庫で占められていましたが、近年ヨーロッパ最大の市街地再開発により、新しい観光スポットが生まれています。

◆エルプフィルハーモニー・ハンブルク

伝統的な赤レンガ造りの港湾倉庫の上に全面ガラス張りの建築物を載せる形により、帆のイメージをしたガラス部分にはコンサートホールやホテルが収まっています。高さ37mの展望回廊からは、この遊覧船の様子も見えているのではないのでしょうか。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

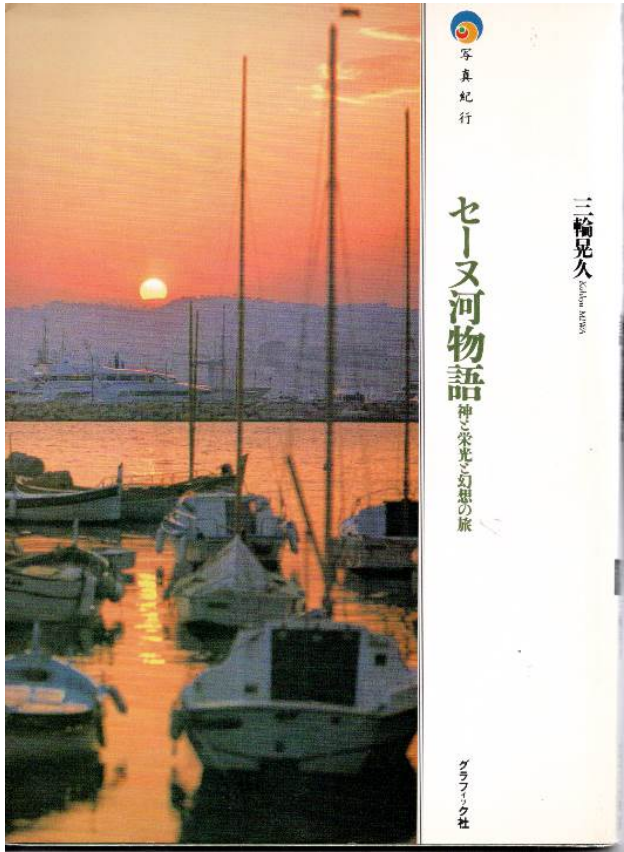
JRRN 会員寄稿 (2) JRRN Member Contribution

河川書の探求(11)

セーヌ川は流れる

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

1. セーヌ川の流れ



油谷耕吉ら著『川と文化－欧米の歴史を旅する』(玉川大学出版部・2004)には、フランスの国土の60%が海拔250m以下の平地で、山岳地帯は東部と南西部の国境に位置し2000m以下の山が聳えたとある。フランスの四大河川は、セーヌ川、ロワール川、ギャロンヌ川、ローヌ川である。セーヌ川は長さ776km、流域面積78,650km²、源を中央山塊の北端ブルゴーニュの首都であるディジョンに近いタスロ山(海拔471m)に発し、広大なパリ盆地を緩やかに蛇行を繰り返しながら流れ、英仏海峡に注ぐ。

フランスの宗教は多数がカトリックであるが、セーヌ川沿いの神と栄光を綴った三輪晃久著『セーヌ河物語』(グラフィック社・1998)は、セーヌ河の源流から始まる。その源流には、パリ市所有地である立て札があり、水の精・裸婦像が右手に葡萄の房を持ち、ここから滔々と泉が湧いており、フランスに豊かな産物を育むことを象徴している。セーヌの流れにそって悠々と下っていくとセーヌ河畔は至る所に公園をつくり、森と古城と教会が続く。さらに下りフランスの都パリ、歴史を秘めたノートルダム、パリ

の石橋を下り、ヴェルサイユ宮殿、画家のモネの家を訪ね、シャンヌ・ダルクの処刑地ルーアン、第2次大戦の作戦地ノルマンディー、セーヌの河口へと流れる。

セーヌの名の由来が「ゆったりした川」として緩やかな流れと豊かな水量を誇っていることが理解できる。このゆったりとした川は運河と結ばれ舟運の役割を持つ。

2. パリの橋

セーヌ川は全長776kmのうち、パリ市内を流れる部分はわずかに10kmに過ぎないが、ここに架かる34基の橋はすべてパリの歴史と文化が凝縮されている。泉満明著『橋を楽しむパリ』(丸善・1997)、渡辺淳著『パリの橋－セーヌ河とその周辺』(丸善・2004)、小倉孝誠著『パリとセーヌ川－橋と水辺の物語』(中公新書・2008)では、セーヌ川と橋と都市の三つが一体となっておりなすドラマを論じる。ルイ・フィリップ橋は、橋の名であるルイ・フィリップ王が1833年に鉄の吊橋を架けた。1862年に改築され、長さ100m、幅15mの三径間の石造りアーチに変わった。



3. セーヌ川の洪水

パリの紋章はセーヌ川に浮かぶ船をあしらいい「たゆたえども沈まず」とラテン語の文字が刻まれ、不滅のパリを象徴する。パリの町には、ヨンヌ川、マルヌ川、オーブ川、そしてセーヌ川の本川の水が全て合わさって入ってくる。セーヌ川は幾度となく洪水を起こし、不滅といえどもパリは水没している。1658年、1910年、1924年、1978年、1982年の洪水が特筆される。洪水は冬に起こりやすい。

佐川美加著『パリが沈んだ日—セーヌ川の洪水史』(白水社・2009)は、1910年1月21日から3月までのパリが大洪水によって巨大な湖となったことを分析する。

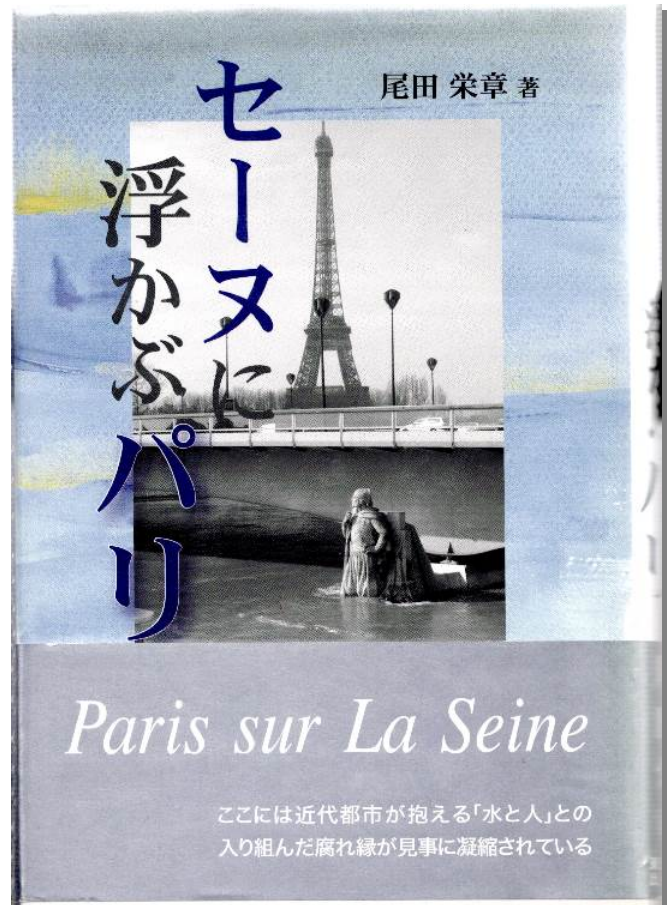
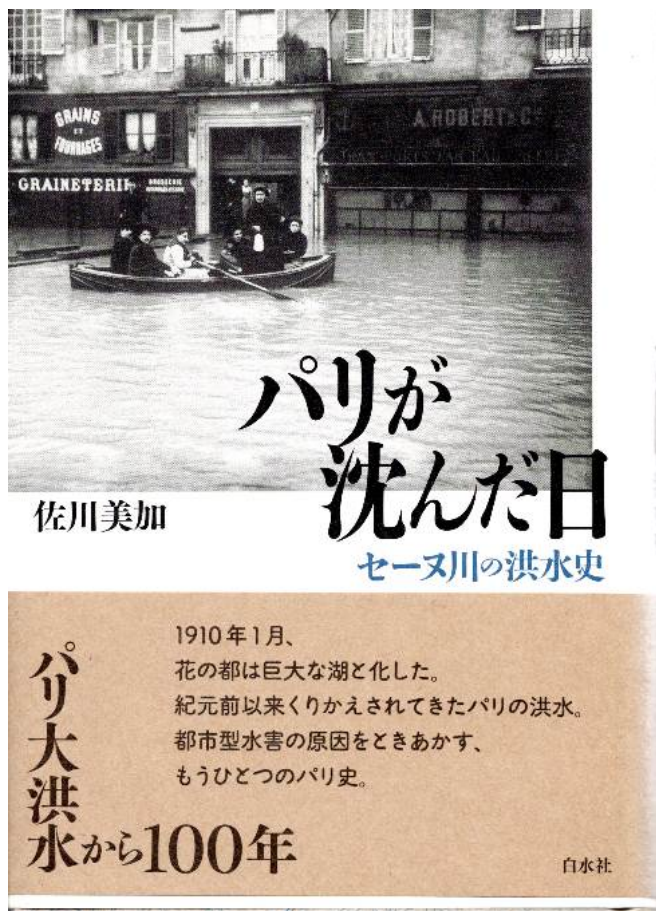
この書の表紙には、ボート上のパリの人々は上品な服装している洪水風景が掲載されている。オーステルリッブ橋における最高水位は8.62mに達した。被害は、パリ市内だけで被害者20万人、浸水家屋約2万戸、避難家族約1000軒、にのぼり、パリの首都機能が2ヶ月間麻痺した。

4. セーヌ川の治水対策

尾田栄章著『セーヌに浮かぶパリ』(東京図書出版会・2004)には、1910年のパリ大水害も追っている。その洪水対策を次のように掲げている。

マルヌ川のアンネットとセーヌ本流のエピナイの間に新たな放水路を500 m³/秒を分流すると、1910年の洪水タイプではパリ市内では1.5mの洪水水位の低下が期待でき、それにセーヌの河床を掘り下げる事業がスタートしたが、第一次世界大戦により中断された。民間では1914年～1920年にかけて23基のダム群の建設によって、洪水水位を5m低減させ、セーヌの氾濫を防ぐとともにパリの上水道の水源を確保し、水力発電を興すシャバル計画が出された。アメリカのTVA計画よりも10年以上の前のことである。1924年再び洪水がパリを襲った。1925年シャバル計画のダム群の建設が認められた。現在までに、治水対策用のダム6基が建設され、セーヌ川上流の洪水調節容量は8億4,400万m³である。

<枯葉鳴るセーヌ河畔の古本屋> (戸崎治子)



会議・イベント案内 (2019年3月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■第8回サクラマスサミット

○日時：2019年3月3日(日) 15:00～18:00

○主催：森田公民館・森田地区文化委員会

○場所：森田公民館(福井県福井市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2933.html>

■巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」

○日時：2018年3月9日(土)～5月6日(月)

○主催：国土交通省関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所

○協力：水の巡回展ネットワーク、JRRN 他

○場所：相模ダム資料室<相模ダム管理支所内>(群馬県利根郡みなかみ町)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3337.html>

■第200回 河川文化を語る会『江戸時代の環伊勢湾経済圏と特産物流通』

○日時：2019年3月17日(水) 14:30～16:30

○主催：公益社団法人日本河川協会

○場所：NTNシティホール(桑名市民会館)「大会議室」(三重県桑名市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3294.html>

■第23回 荒川流域再生シンポジウム

○日時：2019年3月17日(日) 13:00～16:30

○主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク

○場所：女性教育会館 大会議室(埼玉県嵐山町)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3321.html>

■“いい川”づくり研修会～災害復旧と多自然川づくり～【中部地域】

○日時：2019年3月19日(火) 10:00～16:30

○主催：NPO 法人全国水環境交流会

○場所：ウィルあいち(愛知県名古屋市中区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3332.html>

■外来魚駆除大会 in 琵琶湖

○日時：2019年4月21日(日) 10:00～15:00

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所：滋賀県草津市津田江1(北) 湖岸緑地

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2941.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 (JRRN 会員著作の新刊案内) *Publications*

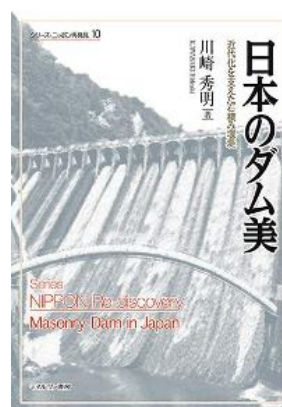
■「川に生きる 世界の河川事情 (2018.9)」



本書は中日新聞・東京新聞で3年間に渡り連載されたコラム「川に生きる」を書籍化したもので、多様な生物が生息する川と人との関係が描かれています。

- 書名：川に生きる 世界の河川事情
- 著者：新村安雄 (JRRN 会員)
- 頁数：192
- 発刊日：2018年9月14日
- ISBN：4806207489, 978-4806207481
- 定価：¥1,300+税
- 出版社：中日新聞社

■日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤 (2018.10)



本書では、「石積みダム」の歴史・分類や背景、また石積み堰堤目録からダムの雑学まで、その魅力が存分に語り尽くされています。

- 書名：日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤
- 著者：川崎秀明 (JRRN 会員)
- 頁数：320
- 発刊日：2018年10月
- ISBN：9784623083121
- 定価：¥2,200+税
- 出版社：ミネルヴァ書房

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

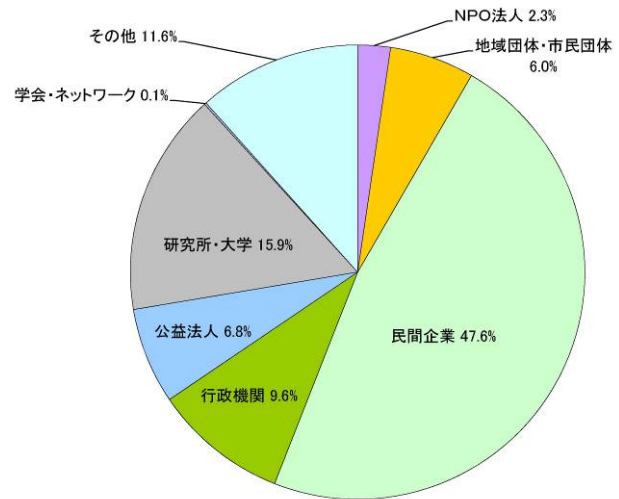
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2019年2月28日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：793名、団体会員数：60団体)

※2月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

